



山積する課題に対応していくなかで、自身に余裕がなくなった時、子どもたちの笑顔や頑張る姿に助けられた経験をお持ちの方は、わたしだけではないと思います。子どもたちの力は本当に凄いです。今、学校では様々な改革が進められています。それらの改革は「子どもたちのために」行うことが何より大切であると考えます。

(副会長 蛭田 紀隆)

危機の時代をともに歩んで



いわき市小学校長会

会長 大石 正文

まもなく東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故から15年、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言から6年が経ちます。私たち校長は、管理職（あるいは校内のミドルリーダーや行政職員）としての大半を未曾有の危機対応に追われてきたとも言えます。

さて、皆さんは「PTSD」ならぬ「PTG」という言葉をご存じでしょうか。PTGとは、Post Traumatic Growth（心的外傷後成長）の略で、人生における危機的状況やトラウマ（心的外傷）を経験した後に、苦難を乗り越え、人間として心理的な成長を遂げる現象を指します。ある研究によると、トラウマが障がいとなる場合と成長につながる場合との違いは、「安心できる場」「意味づけを支える対話」「社会的つながり」「焦らず見守る姿勢」などの環境下にいるかどうかが影響するそうです。

よく「校長は、孤独な存在」と言われます。確かに学校経営の最高責任者であり、教育行政の施策実現のトップランナーでなければならない校長は、困難な課題に直面したとき、悩みや迷いを表に出せずに一人苦しむこともあります。しかし、私たち校長会は、震災やコロナ禍など、解のない課題に直面した時、その都度組織で対話を重ね、共に支え合いながらその難局を乗り越え、時代に適応したさらなる進化を遂げてきました。この歩みは、困難が成長に結びつく環境そのものではないでしょうか。そして、この姿勢こそ、今求められている教育の在り方、方向性を体現したものだと考えます。

ところで、PTGには別の意味もあります。「Generation」、共通の困難を経験し、共感し合える世代のことです。私たちの世代も、今後、若い先生方や子どもたちに震災当時の苦労話を繰り返し、苦笑されることもあるかもしれません。しかし、「学校は復興の最大の拠点」ととらえ、子どもたちの笑顔のために、ともに手を携えて歩んできた仲間とは、いつまでも共感し合えることでしょう。

風通しのよい職場に育てられ…



いわき教育事務所

所長 芳賀 稔

若い頃に「日直がきちんと仕事をしないので困っています。」と先輩の先生の前で話をしていたら、「日直ができた部分を毎日黒板に書いてほめてみたら。」とのこと。数週間続けてみると、何も言わなくても日直は仕事をするようになり、ほめて育てることを教えてもらいました。だいぶ前のことですが、今でも鮮明に覚えています。このように、私はこれまで多くの先生方に支えられ、失敗を重ねながらも何とかやっていくことができましたが、何でも相談できる風通しのよい職場だったからこそだと感じています。

所長訪問では、対話の時間を設定させていただいた学校もありました。その中で「職員室の雰囲気が良い」、「先生方に相談しやすい」、「管理職に話しやすい」などの声が多く聞かれました。校長先生方がお忙しい中、様々な配慮をし、風通しのよい職場をつくってくださっていることがうかがえて、たいへん感銘を受けました。そのような職場で働ける先生方は本当に幸せだと思います。

風通しのよい職場は、学級経営、授業改善、生徒指導はもちろん、不祥事防止、多忙化解消においてもプラスにしか働かないと考えています。そして、風通しのよい職場が先生方のスキルアップなどにつながり、ひいては児童生徒の確かな成長に結びつくのではないのでしょうか。

実は私が教頭に昇任するとき、先輩の先生から「管理職になったら、毎日教職員全員と話せよ。」と言われました。言われるがまま続けてきましたが、今思えば、「風通しのよい職場を作れよ。」というメッセージだったのではないのでしょうか。そのメッセージを、私は今も意識しています。所長訪問での昼食の場所等、話題には事欠きません。しかし、何にプラスになっているかは……。嫌がられない程度に続けていこうと思います。

新 会 員 の ひ と こ と

～ともに一枚岩の担い手として～

物思いに耽る



新任校長として着任してから半年が経過しました。その間、校長会や各種研修会において、先進的な実践や先輩校長先生方の取組を見聞きし、自分の学校でもできることはないかと、一人考える時間が増えてきたように思えます。現状を打破し、よりよい学校を目指すため、物思いに耽ることも大切にしようと思います。

(平六小 作山 高宏)

地域とともに



登校指導で卒業生と思われる中学生がいつも挨拶をしてくれます。児童が、整然と並んで登校する姿より、地域が子どもたちを温かく見守り、健全育成に尽力されていることを強く感じました。地域で大切に育てられた子どもたちは、将来どこでも豊かな人間関係を築けると確信しています。地域と協働しさらに活気ある学びの場となるよう尽力したいと思います。

(高久小 進藤 健二)

新しきを知る



校長室にある昭和38年、創立90周年記念に贈られた額には、「温故知新」と書かれています。揮毫は、当時の文部大臣である灘尾弘吉。時代が令和になり、教育改革が一層進んでいます。学校の歴史と伝統、保護者や地域の願いをふまえ、目の前の子どもたちにとって大事にするものを見極めて、精一杯取り組んでまいります。

(赤井小 込山 宏)

温かみのある学校を目指して



「夢！パワー！チャレンジ！」を合言葉に、全校生329名。34名の職員と、小さくとも目標をもつこと、元気いっぱいなあいさつができること、伝え合うことを目標に活動に取り組んでいます。ベテランと若手がかみ合い、子どもと先生の距離が近い大浦小学校となっています。応援して下さい地域の皆様、大浦小の全職員、校長会の諸先生方の思いを大切に、尽力していく所存です。

(大浦小 新家 久永)

津波警報に学んだつながり



7月30日の津波警報。ここ久之浜では、学童に通っている子どもたち、本日出勤している職員の安全面をすぐに考えなければいけない緊急事態です。近隣の学校と情報交換をし、経験のある校長先生方に指導もいただきました。さらにありがたかったのは、支部長からの連絡でした。あらためて校長会という組織に感謝しつつ、今後さらに連携を深めていくことの大切さに気づかされました。

(久之浜一小 野口 浩文)

Smiles for All



本校は、市最北端に位置する児童数5名の小規模校です。5月、児童だけでなく保護者や地域の方々も参加型の「みんなの運動会」を開催しました。終了後には、児童も職員も保護者も地域の方々も…参加されたみなさんが笑顔でした。「地域に支えられ、地域を笑顔にする学校」づくりを職員一丸となって推進してまいります。

(久之浜二小 伊藤 貴史)

子どもたちの笑顔を守るために



初めての職、地区、校種。何もかもが初めての中、不安でスタートしましたが、今までとは違う充実感と責任感を感じる日々を送っています。子どもたちの笑顔や「校長先生！」の声に活力を得るとともに、校長として子どもたちや学校に何ができるか考えております。今後も校長先生方からご指導をいただき精進してまいります。

(小川小 川島 淳)

「みんなが明日も来なくなる学校」を目指して



小玉川が学校の裏を流れ、磐越東線の気動車がわきを通る小玉小学校。校長として赴任して半年経ち、本校の素晴らしさや改善点が見えてきました。同時に、校長は学校と対外的なものをつなぐ重要な役割であると日々感じています。「みんなが明日も来なくなる学校」を目指して、学校と人・地域・文化をつないでいきたいです。

(小玉小 富田 弘)

母校の子どもたちのために



初めての校長としての赴任地が自分の生まれ育った地だったことに驚きました。同時に「何か恩返しをしなければ」という思いを強くもちました。私は、常々「子どもたちには夢を持って成長して欲しい」と思って教育に携わってきました。母校の子どもたちが夢を実現させる第一歩を踏み出せるように学校経営をしたいと考えています。

(内町小 佐々木 功)

「縁」と「運」を大切にする



郡山市より参りました。辞令をいただく前・着任した後も「なぜ、そこに配置されたのか考え続けろ」と言われ、一つ出来事があると、「ああそうかこのために来たのだ。」と思います。次のことが起こるとまた、考えます。全ての事象に意味があり、日々の出会い・出来事の意味を考え、感謝する毎日を送らせていただいています。

(綴小 小野 一豊)

「感謝」を原動力に、子どもたちのために



管理職として2度目のいわき勤務に臨み、期待と決意を胸に着任しました。この地で再び、尊敬する先輩方から学校経営の理念や姿勢を学ぶ機会を得たことに心から感謝し、「子どもたちが主役」の教育活動への挑戦を続けてまいります。頼もしい教職員や地域の関係者とともに、子どもと教職員一人一人のウェルビーイングを大切にし、安心して学び働ける学校づくりに全力で取り組む所存です。

(好間四小 渡辺 洋之)

自覚と責任



26年ぶりのいわき市勤務。諸先輩方との再会と温かいお言葉に喜びを感じるとともに、4月からここまでの学校運営を振り返り、校長としての自覚と責任の重さを改めて実感しています。子どもたちの未来のため、子どもたち、保護者、地域、そして教職員が安心・安全に教育に関われるよう、学校運営に臨んでいきます。

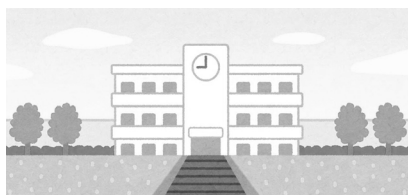
(湯本二小 鈴木 道裕)

「笑顔輝く学校をめざして」



昨年度、創立50周年を迎えた汐見が丘小学校に着任して、半年が経とうとしています。学校スローガン「笑顔がいっぱい学び続ける元気な学校」を目指して全職員が全校児童に責任をもち、保護者に信頼され、地域に愛される学校づくりはどうあればよいか、自問自答し実践を積み重ねている所です。また、特に支部の校長先生方には、大変お世話になり、心強い限りです。ありがとうございます。

(汐見が丘小 緑川 元夫)



一人一人の笑顔と学びを支えられる釘となって



赴任して数ヶ月経った今尚、子どもたちの活き活きとした姿から、これまで本校を築き上げてこられた諸先輩、保護者、地域の多くの方々の想いを感じております。与謝野晶子の歌「劫初より作りいとなむ殿堂に我も黄金の釘一つ打つ」を思い出します。私自身、子どもたち一人一人の笑顔を支えられる釘となれるよう、精一杯務めて参ります。

(錦東小 吉田 明史)

夢をかなえる学校づくり



新任校長として郡山市より参りました。「変革」に積極的に取り組んでいращやる、近隣の先輩校長先生方に刺激を受け、1学期は本校でも前例踏襲を見直し、働き方改革の視点で業務改善に挑戦しました。今後も、保護者や地域の方々の協力を得ながら、みんなの夢を叶える学校づくりを進めて行きたいと思ひます。

(勿来二小 瀧田 和也)

職員、保護者、そして地域と共に



80年ぶりとなる盆踊りが勿来三小の校庭で盛大に開催されました。地域の方の熱い思いに触れ、このすばらしい地域に愛される子どもたちを職員と共に大切に育てていきたいという思いを新たにしました。

これからも校長会の先生方にご指導をいただきながら、地域に愛される学校づくりを目指していきます。

(勿来三小 横田 修)

「感謝」と「初志」と



新任校長として郡山より赴任しておよそ半年、何も分からず不安に思っていました。いわき市の校長会、支部の先輩方のご助力のおかげで何とか日々を過ごせております。本当に感謝しております。そのご恩に応えるためにも、子どもたちの笑顔があふれる学校づくりという初志を実現するため全力を尽くします。

(川部小 田楽 良久)

伝統の礎を築く



創立2年目の遠野小学校。今年度からはコミュニティ・スクールとして、地域と共に教育活動を推進しています。「自分たちの学校を自分たちで創っていく」という思いを子どもたち一人一人に強くもたせ、主体性を大切にするとともに、遠野小ができてよかったと地域の方々からも思ってもらえるよう精一杯尽力します。

(遠野小 吉田 紀文)

各専門部の活動

行財政部

部長 粥塚 保則

県小中学校長会の活動方針を踏まえ、教育行政上の課題解決に、組織的・継続的な対策活動を展開します。

1 調査研究活動

- 教育行政上の諸問題の調査・分析
- 教職員人事の適正化、定数の改善等

2 重要課題の要望活動

- 教職員人事に関する提案・提言書の作成
- 関係機関に対する各種提案・提言

3 その他

- 働き方改革のより一層の促進
- 県行財政部・各支会との連絡調整

県行財政部にて毎年行われている調査は、各機関への要望活動の際の重要参考資料となっております。校長先生方のご理解のほどよろしくお願いします。

研究部

部長 地引 修

市小学校長会研究部は、質の高い研究の推進を図り、校長としての資質・能力を高めて学校経営の改善と充実に努めることを目標として、令和6・7年度継続研究の2年次研究に取り組んできました。

7月に実施した「いわき市小学校長会研究協議会」では、4ブロックの研究発表をもとに2か年研究の成果を共有しました。8月の「第54回福島県小学校長会研究協議会安達大会」では、第1・第2ブロックが発表し、さらに研究を深めることができました。本年度の県研究協議会は「福島県小学校長会100周年記念事業」として実施され、発表者の先生方には、急な様式の変更等に対応していただきました。誠にありがとうございました。

「令和9年度第79回全国連合小学校長会研究協議会福島大会」では、第3ブロックが発表することとなります。いわき支会全体で盛り上げていきましょう！

広報部

部長 佐川 典康

広報活動を通して、いわき市小学校長会の活動を円滑かつ積極的に推進し、市小学校教育の一層の充実を図ることを目指して活動しています。

今年度からは、「広報」の発行を年1回（11月）に絞り込み、内容の充実を図ります。特に、いわき市小学校

長会の活動方針や各専門部の活動計画に焦点を当て、今後の展望が明確になるような特集記事を組む予定です。

本年度発行の第356号では、以下の内容で編集いたしました。

- ・巻頭言（市校長会長、いわき教育事務所長）
- ・新入会員の抱負
- ・各専門部の活動計画等

生徒指導部

部長 野木 哲也

生徒指導上の課題解決に迫れるよう、主に次のような活動に、計画的、継続的に取り組んでいます。

- 1 声かけ事案・わいせつ被害などの不審者情報を集約し、支部・中学校区で情報の共有化を図ることで児童の安全面の確保や教師の指導に生かしています。
- 2 県小学校長会生徒指導部の依頼を受け、「子どもたちの心のケアに向けた校長としての取組」「不登校、いじめ、虐待、暴力行為、ネット・SNS利用の実態と校長としての取組」について調査し、実態や課題の把握に努めています。
- 3 いわき教育事務所・いわき市教育委員会はもとより警察署や青少年健全育成の諸団体との連携を密にしています。また、支部ごとに基本的生活習慣等の啓発資料として「生活のきまり」「長期休業中の過ごし方」などを家庭に配付しています。

事務局だより

事務局長 和田 裕二

会長の掲げる「ともに学び、助け合い、子どもたちの幸せのために『変革』する校長会」の活動目標のもと、会員59名による令和7年度がスタートしました。様々な課題に対して、教育活動の意義や働き方改革の視点を踏まえ、見直しや改善に取り組みます。

今年度の市校長会は、3回の研修会を計画し、進めてきました。1回目は福島大学学長の三浦浩喜様、2回目は「(株)先生の幸せ研究所」の大野大輔様を招き、有意義な時間を過ごすことができました。3回目は11月に文部科学省初等中等教育局の栗山和大様を招き、研修を開催する予定です。校長としての教養を深め、資質を高め、子どもが幸せになるための学校経営力を磨く大切な時間になることを願っています。

互助の精神で会員相互の絆を深め、一人一人が学校経営の充実に向けて学び続ける校長でいたいものです。

編集後記

『変革』する校長会の広報部です。今年度から年1回の発行とさせていただきました。電子化についても検討の俎上に載っております。会員の皆さまの声をお寄せいただければ幸いです。負担軽減を図りながら、校長会の横のつながりを維持する一助となる広報へ。本号発行にあたりまして、いわき教育事務所長様はじめ多くの校長先生からご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。
(夏井小学校 須田 英明)